

矯正施設における栄養素別・食品群別からみた食糧給与の現状

池川雅哉¹⁾，加藤正博²⁾，山下智栄³⁾，坂野真弓³⁾，武田隆久³⁾，木村美恵子³⁾

(¹⁾ 京都府立医科大学ゲノム医科学，²⁾ 法務省，

³⁾ タケダライフサイエンスリサーチセンター（疾病予防センター））

【目的】我々は、わが国の矯正施設における被収容者の栄養健康状態ならびに、給与食糧の実態に着目し、調査検討を行ってきた。本研究では、矯正施設での給与食糧の実態を把握するとともに、理想的な給与食糧について考察するため、栄養素別・食品群別から見た食糧給与の実態について詳細に検討し、若干の考察を試みた。

【方法】日本全国の拘置所、刑務所の中から調査協力の得られた合計 11 矯正施設 10 日間（平成 15 年 10 月）の献立表に基づき、5 訂日本食品標準成分表を用いて各種給与栄養素ならびに食品群別給与量を算出し、国民平均値（平成 15 年国民栄養調査結果 男性 40～49 歳）と比較検討した。

【結果と考察】今回の調査対象 11 矯正施設被収容者の平均年齢は 40.7 歳であった。10 日間の平均栄養素給与状況は、エネルギー、蛋白質、脂質の各項目は、どの施設も概ね矯正施設被収容者食糧規定、国民栄養調査結果、第 6 次改訂食事摂取基準を充足していた。食塩給与量では国民平均値 12.7 g と比べ、各矯正施設（ $13.9 \pm 2.1 \sim 21.1 \pm 3.6$ g）は高値を示し、調味料、佃煮などの配慮が必要である。ビタミン類給与量では、VA（RE）、VK、VE、ナイアシン、VB₆、葉酸、パントテン酸、VC は、どの施設も概ね矯正施設被収容者食糧規定、国民栄養調査結果、第 6 次改訂食事摂取基準を充足していた。VD、VB₁、VB₂、VB₁₂ では、国民栄養調査平均値を下回る施設が多く見られ、また大きな施設較差が認められた。ミネラル給与量では、どの施設も矯正施設被収容者食糧規定、国民栄養調査結果、第 6 次改訂食事摂取基準を概ね充足していたが、施設間格差のあることは明らかであった。食品群別給与状況では、穀類はどの施設もほぼ一律の給与量であった。また砂糖類、緑黄色野菜、その他の野菜、海藻類、肉類については、若干のばらつきはあるが、国民栄養調査結果、食品群別摂取目標量を充足していた。砂糖類、油脂類については、過剰傾向を示す施設も見られた。きのこ類、卵類では、低値を示す施設が多く見られた。乳類については、全ての施設（ $0.6 \pm 1.9 \sim 64.5 \pm 124$ g）で低値を示した。菓子類、調味料類・嗜好飲料では、国民栄養調査結果に比べ、低値を示す施設が多く見られた。上記解析と同時に、現在、矯正施設被収容者の入所以前の食生活についての調査を実施し、より詳細な摂取栄養素量について解析中である。